

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
28-104	高等学校	地理歴史	地図	
発行者の番号・略号	教科書の記号・番号	教科書名		
130 二宮	地図 315	新コンパクト地図帳 改訂版		

1. 編修の基本方針

本書は高等学校地理歴史科地図として、地理歴史科(特に地理A, 地理B)の授業の際に、地理的・歴史的事象を空間的にとらえさせたり、日本と世界の現状や課題を把握させたりすることで、地理的な見方・考え方はもちろん、地図を活用する技能を身につけることができるように編修した。本書から得られる知識・考え方・技能は地理歴史科だけでなく、他科目・他教科や高校生活の全般、ひいては将来の進路においても活用してもらえるようにし、生徒が多面的かつグローバルな視野に立って考えたり、行動したりする態度を養うことのできる地図帳になるよう留意した。また、本の判型をA5判にすることにより、常に身のまわりに置き使いやすい地図帳にした。

1) さまざまな地域規模で構成された世界の一般図

世界では「東アジア」、「ヨーロッパ」、「北アメリカ」など大州区分ごとの図のほか、「西・中央ヨーロッパ」、「アメリカ合衆国東部」、「南アメリカ中央部」などの拡大図、「ユーラシア・アメリカ」のような広い範囲を扱った地図、「イスラエル・パレスチナ周辺」、「ベネルクスとその周辺」、「カフカス地方」のように狭く限られた地域を扱った図などさまざまな視点で世界を見渡すことができるものにした。



2) さまざまなスケールの組み合わせで構成された日本の一般図と都市図

地方単位の図についてはその地方に見合った範囲・図取りを検討し、地方図については「南西諸島」「九州」「北海道」を除きすべて115万分の1で統一、その拡大図として80万分の1「九州北部」、60万分の1「近畿・中京」「関東中央部」を掲載した。

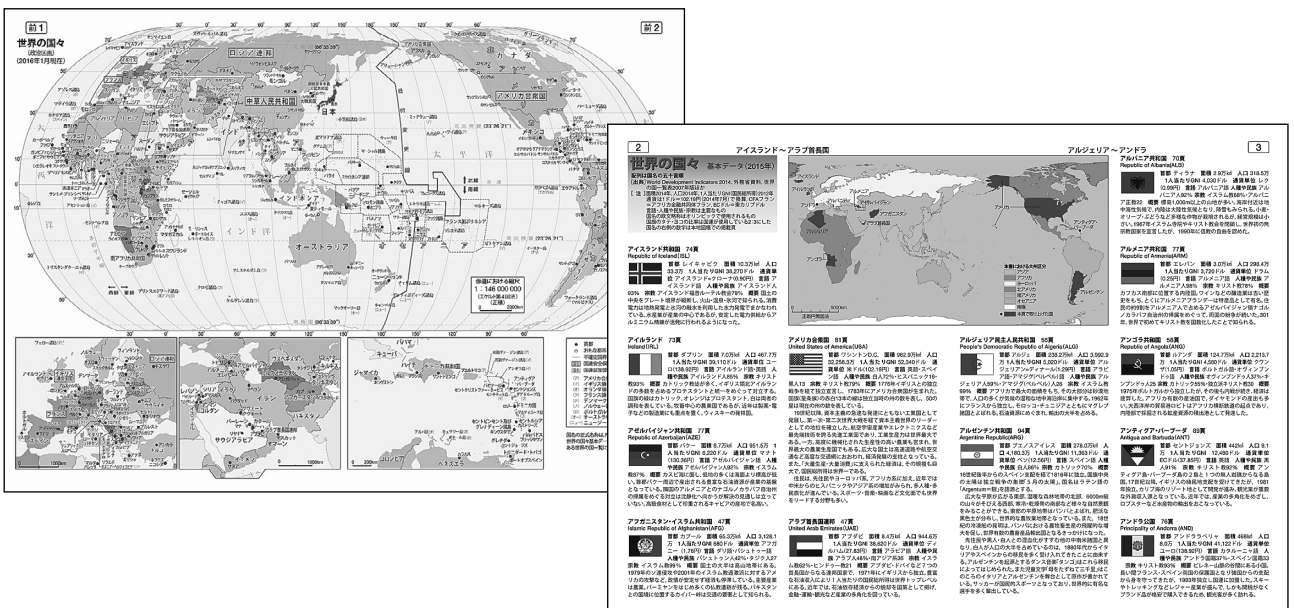
大都市の都市図では、より詳細な図が見られるよう、5万分の1の図に加え、2万5000分の1「梅田～なんば」「新宿～渋谷」、1万2000分の1「梅田」「なんば」「新宿」「渋谷」も掲載することで同一地域が3つのスケールで見ることができるようにした。スケールの違いによる地図表現の違いや地名の取り上げ方の差がはっきりとわかるようにした。



3) 世界を大観する主題図と各国ごとの詳細データ

本書の冒頭、前1～前2「世界の国々」及び巻末、後1「世界のおもな航空路」後2～後3「等時刻帯」は地理の授業において非常によく使われる基本的で世界を大観する主題図であり、これらを冒頭や巻末でまとめることにより、さらに使いやすく使用頻度を高める効果を出した。また、世界の全体像がつかめる図を中心に地形・気候・人口などジャンルごとに主題図のページを作成した。

2～29 ページ「世界の国々基本データ」では、国ごとに統計データを掲載し、概要では産業や文化を簡潔に紹介して、世界のさまざまな生活・文化に興味・関心が持てるようにした。



4) 美しい配色と詳細な地形描画により見やすくわかりやすい地図帳とする。

●一般図の地形表現から主題図にいたる地図帳全般を通じ、地名等の文字を読み取りやすくするため、明るい色彩にすることに努めた。一般図は全体を通して、標高による段彩表現を行い、平野の緑色系から山地・山脈の茶色系へと色を変化させることで、標高の高いところと低いところを明瞭にし、各地域の地形を把握させることを容易にした。

●地図学習において重要である国名や首都名を大きくし、ほかの地名との差別化を図った。また、国名や山脈名などには文字に白の縁取りを行い、色覚特性のある生徒に対しても配慮した。

●また、地形表現が緻密であるため、海岸線や地形の様子をはっきり読みとることができるようになっており、「フィヨルド」・「リアス海岸」・「鳥趾状三角州」・「エスチュアリー」など、地図で見える地形名称を一般図上に掲載した。

5) 最新の情報による現代社会の情勢を反映した地図帳とする。

●一般図を掲載する際、特に拡大図に関しては国際情勢を考慮した図取りを選択するとともに、最新の状況が反映されるよう努めた。

●主題図を作成するために使用した統計資料や地図などはなるべく最新のものを使用することを心がけた。国内外の地図をはじめ国際連合やその他の国際機関、各国の資料など信憑性の高いデータによって作成し、資料性が高く充実した内容となっている。

6) 我が国、国土への愛着や関心がわく地図帳とする。

●我が国の国土を一望できる一般図「日本の位置」(p.112～113)を掲載。日本の東西南北端の写真を挿入し、国土について視覚的に理解できるものにした。

●統計資料では、日本の自然に関する統計を世界とほぼ同量にし、都道府県に関する統計も充実させて、地図だけでなく数値としても我が国の現状をとらえやすくした。

7) 諸外国の現状を学び、他国や異文化を理解ができる地図帳とする。

●世界の一般図の地名は、今日の外国語教育や国際理解教育の普及をふまえ、現地音に近い表記となるよう心がけた。

●大州図のうち、「ヨーロッパ」や「北アメリカ」の図には「同緯度同縮尺の日本」を、「南アメリカ」の図には「地球の正反対側においた同縮尺の日本」を描画した。これにより、日本との位置関係や日本との面積の比較がしやすくなり、諸外国への理解や関心が持てるようにした。

8) 地理歴史科の地図として日本史や世界史への活用や、公民科にも活用できる地図帳とする。

●世界の一般図ならびに日本の一般図には、世界遺産、史跡・遺跡、名所・名勝などを記号や文字囲み、また色を用いて示すことによって、一般の地名と一見して区別できるようにした。

●人口やエネルギー資源など公民分野でも扱っている内容を取り入れて、地理歴史科だけでなく公民科にも活用することができる地図帳とした。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
世界の国々	冒頭のページにあたるので、世界全体を把握させ、政治区画の図を日本中心のものとし、世界の中で日本の位置を把握させるようにした(第五号)。	前1～2
	冒頭のページに世界の独立国全てが見られる図を取り上げ、一覧性を高めて知識の定着と正しい空間認識が身につくようにした(第一号)。	前1～2

世界の国々基本データ	世界の独立国全ての国旗を掲載するとともに、おもな国については統計資料や説明文を利用して日本を含む独立国の概要をつかめるようにした（第五号）。	P.2～29
世界の一般図 ユーラシア・アメリカ，東アジア，中国東部，滬寧杭地区，珠江三角洲地区，台湾，朝鮮半島，東南・南アジア，インドシナ・西インドネシア，フィリピン，南アジア，西アジア，中央アジア，トルコ・アラビア半島，イスラエル・パレスチナ周辺，アフリカ，アフリカ北部，アフリカ南部，ヨーロッパ，地中海，西・中央ヨーロッパ，ベネルクスとその周辺，ヨーロッパ東部，イタリア・バルカン半島，イギリス・アイルランド，北ヨーロッパ，アイスランド，スイス，イベリア半島，カフカス地方，ユーラシア北部，北アメリカ，北アメリカ中央部，アメリカ合衆国西部，アメリカ合衆国東部，中央アメリカ，南アメリカ，南アメリカ北部，南アメリカ南部，大西洋，太平洋・インド洋，オーストラリア，ハワイ諸島，ニュージーランド，北極，南極および各都市図	世界における国土や環境の様相にかかわる情報を一般図に取り上げ，知識や教養の定着と正しい空間認識が身につくようにした（第一号）。	P.30～101 までの一般図部分
	世界の一般図・都市図に世界遺産の記号と名称を取り上げ，ほかの地名と区別がつくような記号と色彩とした（第四号）。	P.30～101 までの一般図部分 P.102～111 までの都市図部分
	世界の一般図に国立公園の範囲を示す記号とその名称（一部）を取り上げた（第四号）。	P83～87， P98～100
	ヨーロッパの歴史や文化を考える上で欠かせない聖堂・教会，宮殿・城の記号を掲載した（第五号）。	P.64～67
	一般図については史跡・遺跡などの名称を赤字にすることでわかりやすく表記した（第五号）。	P.30～101 までの一般図部分
日本の位置 日本全図 北方領土問題	我が国の国土の現状と周辺諸国との位置関係について理解できるようにした（第五号）。	P.112～115， P.144
日本の一般図 南西諸島，九州，中国，四国，近畿，近畿・中京，中部，関東，関東中央部，東北，北海道および各都市図	日本における国土や環境の様相にかかわる情報を一般図に取り上げ，知識や教養の定着と正しい空間認識が身につくようにした（第一号）。	P.116～143
	日本の一般図に世界遺産の記号と名称を取り上げ，ほかの地名と区別がつくような記号と色彩とした（第四号）。	P.116～143
	日本の一般図に国立公園・国定公園の範囲を示す記号とその名称，ラムサール条約指定地を示す記号を取り上げた（第四号）。	P.116～143
日本主題図	日本の自然環境についての主題図を掲載し，どのような自然条件のもとでわれわれが生活を営んでいるか理解できるようにした（第五号）。	P.156～157

自然（地形） 自然（気候）	多くの模式図や写真を使用して，世界のさまざまな自然条件のもとで人々が生活していることを理解させるとともに，自然の重要性や生命の尊さを考察できるようにした（第四号）。	P.158～161 P.162～165
言語 宗教	文化の例として，世界や日本の言語や宗教がどのように分布しているかがわかる主題図を掲載した（第五号）。	P.166～167
人口密度 世界の貿易 日本の貿易 国民総所得 国家間の結合	人口・貿易・経済など今日の社会を如実に現したテーマの主題図を取り上げることにより，社会への興味・関心・社会参画の意識が持てるようにした（第四号）。	P.168 P.172～175
農牧業地域 エネルギー資源 鉱産資源	農業や鉱業など産業に関係する図を掲載し，人間生活と産業の関わり合いなどを考察できるようにした（第二号）。	P.169～171

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1) 地図を見るための工夫

目次を表紙に入れることで地図のテーマやページタイトルが探しやすく，目的のページに容易にたどり着けるような工夫をした。また世界の一般図にはインデックスマップを入れ，地球上のどの部分の地図を見ているのかがすぐに理解できるようにするとともに，隣接する地域のページがわかるようにした。

2) 色覚特性のある生徒への配慮

色覚特性のある生徒にも見やすい地図帳にするため，上記で記載した事項のほかに，①市街地は黄色で表現する，②道路を茶色の2本線で表現する，③主題図の階級区分での色に差をつけるなどの工夫をした。

3) 長期の使用にも対応した用紙と製本

高等学校において地図帳は3年間もしくは4年間の継続的な使用が考えられるので，長期の使用に耐え得る用紙の選択と頑丈な製本方式での造本を心がけた。また，コンパクトな大きさでも地図帳をしっかりと開いて見ることができるよう，製本方式に工夫を凝らした。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-104	高等学校	地理歴史	地図	
発行者の番号・略号	教科書の記号・番号	教科書名		
130 二宮	地図 315	新コンパクト地図帳 改訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

本地図帳は、学習指導要領「地理A」「地理B」を参考にして作成するとともに、地図帳の基本となる一般図の充実に重点を置いた。主題図の項目は系統地理学的視点からテーマごとに配列されている。

1) 一般図について

●世界の一般図に収録した世界遺産、国際空港、日本から直行便のある空港、高速自動車道、戦跡、史跡・遺跡、ロケット発射場などや、日本の一般図に収録した政令指定都市、中核市、世界遺産、ラムサール条約指定地、名所・名勝、史跡・遺跡、テーマパーク等の名称は、記号・文字囲みや色を用いて示すことによって、一般の地名と一見して区別できるようにした。さらにこれらの地名等を増やすことによって、地理の分野だけでなく、世界史・日本史・現代社会など地理歴史科・公民科の授業においても効果的に利用できるようにした。

●日本では、縮尺を1:115万（北海道、九州、南西諸島を除く）とし、拡大して見せる地域と範囲を広くして見せる地域に分けて掲載した。地図情報が過密な九州北部は1:80万、関東中央部と近畿・中京については1:60万の拡大図で補った。これら一般図は、学校における授業だけではなく日常生活においても広く利用できるように配慮し、最新の資料を収録して、普遍性の高い、辞書的な役割を持たせた。

2) 主題図について

●地形や気候などの自然環境は、地理の分野の中でも基礎・基本となるため、日本主題図とともに主題図の先頭に配置した。また、地球の成り立ちを理解するために、大陸の起源と移動に関する図を掲載した。

●言語・民族・宗教、農牧林水産業、エネルギー資源・鉱産資源など主題図のページについては、地理の学習に必要な最低限な図を世界レベルで大きく掲載し、広い視野から世界を大観できるように工夫した。

●地理Aと地理Bともに地球的課題を扱っているため、そのベースとなるような人口密度・エネルギー資源・鉱産資源・国民総所得などの図を取り上げた。

●主題図全体を通して、国内外の地図帳をはじめ国際連合や各国の資料など信憑性の高いデータによって作成した

3) 統計資料・索引について

●統計資料については、基本的な事項を取り上げ、自然統計、産業統計、都道府県別統計などを収録し、内容が豊富で資料性の高いものとなるようにした。

●索引については、漢字での読み方が難しい中国や韓国の地名を日本での音読みから索引が引けるようにするなど、地名を探しやすい工夫をおこなった。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
世界の国々	地理 A (1) ア 地球儀や地図からとらえる現代社会 地理 B (1) ア 地理情報と地図	前 1～前 2	
世界の国々 基本データ	地理 A (1) イ 世界の生活・文化の多様性 地理 B (3) イ 現代世界の諸地域	P.2～29	
世界の一般図 (ユーラシア・アメリカ～ 北極・南極)	世界の一般図(本図)については、高等学校教科用図書 検定基準〔地理歴史(地図)〕に基づいて作成した。	P.30～101 の一般図部 分	
世界の都市図	高等学校教科用図書検定基準〔地理歴史(地図)〕に基 づいて作成した一般図の補助資料として掲載。	P.102～111	
日本の位置	地理 B (3) イ 現代世界の諸地域	P.112～113	
日本全図	地理 B (3) ウ 現代世界と日本	P.114～115	
日本の一般図 (南西諸島～ 北海道)	日本の一般図(本図)については、高等学校教科用図書 検定基準〔地理歴史(地図)〕に基づいて作成した。	P.116～143 の一般図部 分	
北方領土問題	地理 B (3) イ 現代世界の諸地域 地理 B (3) ウ 現代世界と日本	P.144	
日本の都市図	高等学校教科用図書検定基準〔地理歴史(地図)〕に基 づいて作成した一般図の補助資料として掲載。	P.145～155	
日本主題図	地理 A (2) イ 自然環境と防災 地理 B (2) ア 自然環境 地理 B (3) ウ 現代世界と日本	P.156～157	
自然(地形)	地理 A (1) イ 世界の生活・文化の多様性 地理 A (2) イ 自然環境と防災 地理 B (2) ア 自然環境	P.158～161	
自然(気候)	地理 A (1) イ 世界の生活・文化の多様性 地理 B (2) ア 自然環境	P.162～165	
言語	地理 A (1) イ 世界の生活・文化の多様性 地理 B (2) エ 生活文化, 民族・宗教	P.166	
宗教	地理 A (1) イ 世界の生活・文化の多様性 地理 B (2) エ 生活文化, 民族・宗教	P.167	
人口密度	地理 A (1) ウ 地球的課題の地理的考察 地理 B (2) ウ 人口, 都市・村落	P.168	
農牧業地域	地理 A (1) イ 世界の生活・文化の多様性 地理 A (1) ウ 地球的課題の地理的考察 地理 B (2) イ 資源, 産業	P.169	
エネルギー資源	地理 A (1) イ 世界の生活・文化の多様性 地理 A (1) ウ 地球的課題の地理的考察 地理 B (2) イ 資源, 産業	P.170	

鉱産資源	地理 A (1) イ 世界の生活・文化の多様性 地理 A (1) ウ 地球的課題の地理的考察 地理 B (2) イ 資源, 産業	P.171	
世界の貿易	地理 A (1) ア 地球儀や地図からとらえる現代社会 地理 B (2) イ 資源, 産業	P.172	
日本の貿易	地理 A (1) ア 地球儀や地図からとらえる現代社会 地理 B (2) イ 資源, 産業	P.173	
国民総所得	地理 A (1) ア 地球儀や地図からとらえる現代社会 地理 B (2) イ 資源, 産業	P.174	
国家間の結合	地理 A (1) ア 地球儀や地図からとらえる現代社会 地理 B (2) イ 資源, 産業	P.175	
地図投影法	地理 A (1) ア 地球儀や地図からとらえる現代社会 地理 B (1) ア 地理情報と地図	P.176	
統計資料	左に示した統計資料は, 高等学校教科用図書検定基準〔地理歴史(地図)〕に基づいて作成した一般図の補助資料として掲載。	P.180~197	
地名索引(世界), 地名索引(日本)	左に示した統計資料は, 高等学校教科用図書検定基準〔地理歴史(地図)〕に基づいて作成した一般図の補助資料として掲載。	P.198~223	
世界の航空路	地理 A (1) ア 地球儀や地図からとらえる現代社会 地理 B (1) ア 地理情報と地図	後 1	
等時刻帯	地理 A (1) ア 地球儀や地図からとらえる現代社会 地理 B (1) ア 地理情報と地図	後 2~3	